

行政視察報告書

令和5年11月28日(火)

産業建設委員会

視察先

■視察日 令和5年11月28日(火)

■視察先 広島県安芸高田市

【人口：26,675人 65歳以上：40.6%】

・「神楽門前湯治村」 10：00～11：00

・「道の駅 三矢の里あきたかた」 13：00～14：00

■派遣委員 川上幾雄・田畑敬二・村木勝也・大谷 学

小川稔宏・佐々木豊治・牛尾 昭

① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■視察の目的

浜田市で計画がされていると思われる神楽館建設を踏まえ、開館して25年が経過している当施設を視察し、神楽館やその経営、そして問題点への認識を深めるため、建設当時の状況から現在の状況について現地確認・聞き取り調査を行う。

■視察先の概要

施設概要：宿泊、物販、飲食、温泉を持つ複合施設

- ・天然温泉や格子づくりの旅籠や湯治宿。
- ・お土産屋にお食事処や茶屋など軒を連ねる。
- ・昔懐かしい雰囲気。地元の食材や加工品の販売。
- ・神楽を鑑賞する神楽ドーム。（1,500人収容可能）
- ・神楽資料館を有する小劇場。（200人収容可能）

■誕生までの流れ

- 平成元年頃、竹下内閣 ふるさと創生事業で何ができるか。
⇒町民の元気の源『神楽』があるじゃないか！
- 平成4年頃、神楽殿堂構想に着手するがなかなか進まず。
- 平成8年頃、偶然の温泉発掘により計画変更。
(温泉・宿泊を含めた事業へ)
- 平成10年、複合交遊施設 神楽門前湯治村 誕生

① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■視察の内容 <<取組、事業内容等>>

➤神楽の魅力発信、普及への取組

- ・安芸高田市 22 神楽団による公演
- ・地元美土里町 13 団体による共演大会
- ・金土日はいつでも神楽鑑賞できる
(定期公演年間約 150 日公演)
- ・市内こども神楽団による共演大会
(安芸高田こども神楽発表大会)
- ・「地元産品」「神楽文化」「宿泊温泉」

➤近隣市町との連携強化を図る

- ・春夏秋冬特別公演
- ・ひろしまね神楽デー参加

➤国内外への展開

- ・関東、関西、九州圏への出張公演
- ・フランス、ブラジル、メキシコへの海外公演

➤地域住民との連携、協力

- ・地元食材の販売などは、地元の婦人たちが自分たちで考えた商品を持ち込み販売。

① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■視察の内容 <<課題>>

➤観光資源としての神楽

- ・施設ではお金を払って観てもらっているが、神社やイベントなどでは『無料』で観ることができることの矛盾。
- ・いつでも観ることができる → 『陳腐化』しないか。 **神楽の価値向上の取組**が必要。

➤人口減少

- ・地域・神楽団の協力が必須だが、人口減少による **運営力の低下**が懸念される。

➤老朽化を見据えた経営

- ・維持費修繕費を考慮する必要。物流・燃料コスト上昇を視野に入れた運営体制。
- ・採算性確保の困難。施設維持には **継続的な支援**が必要。

➤インバウンドの呼び込み

- ・広島市内には多くの外国人観光客が来ているがこちらにはほとんど来ない。 **アクセスの悪さと神楽のPR不足**。



① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■ 質疑の内容

Q 施設整備に至った経緯と建設を起案した所管課、及び建設費用と維持管理費、決算状況等について

A 当時の所管課は企画課、建設費用は 31 億円(内 7 億は道路整備費)、年間維持管理費は約 3 億円

Q 今後の施設改修の見込みについて

A 公設民営なので、市の財源に大きく左右される。入湯税を基金として積み立てしていたが、空調の修繕や更新等で使い果たした。温泉の設備が壊滅的で何とか使用しているが、大規模な改修は考えていない。

Q 湯治村施設に対する市民の反応について

A 合併後、美土里町民はこの施設を大事に考えているが、その他の町民はそこまで関心ないと感じる。
道の駅北の関宿をあわせて5,000 万円の公費がないと賄えない施設は無くてもよいと考える人もいると思う。

Q 年間の神楽上演回数と神楽団の関係について

A 昼神楽 66 回、夜神楽 76 回、他イベントなど年間 150 回程度。年間行事予定を作成し、神楽団で振分してもらい対応している。

Q 現状における費用対効果について

A 年間 3,000 万円から 4,000 万円指定管理料がかかり、市費で対応。集客は 10 万人、約 3 億円の売上、雇用、取引で 2 億円の波及効果がある。



① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■委員の所感

- ・ 浜田市において同様な神楽関連施設を計画するのであれば複合化を考慮すべきであり、加えて将来負担についても最大の配慮を要するのではなかろうか。
- ・ 時代の背景もあったのだろうが、過大・過剰な投資であったと感じた。もし浜田市で整備されることになるのならば、できるだけ無駄を省き、過度な投資にならないよう将来負担も見据え、当初設計をしっかりと行うべきと感じた。
- ・ 開業より25年が経過し施設の老朽化により維持費や修繕費の捻出が課題とのことであった。小さな修繕をこまめに行うことによって大規模修繕経費の抑制をする。新築時においては割り増しになってでも後々の維持コストを軽減できるように予め設計してトータルな経費は少なくなるようにする。等々、短期的の視点ではなく中長期的視点に立った予算措置になるように思慮すべきと感じた。

① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■委員の所感

- ・ 神楽文化の保存継承と観光資源としての活用というテーマは近隣市町とも競合しており、ライバルも現存する。浜田市の神楽伝承施設の検討においては特色と魅力ある施設は必須条件であり、難易度はかなり高いものと思われる。また、将来にわたって維持するためにも先行施設の維持管理の課題を参考に運営形態、維持管理体制も充分検討し費用負担も含め市民の理解が得られる施設整備が求められる。
- ・ 一般的に市が抱える施設をいかに減らしていくかが大きな課題となっている中、指定管理料 5,000万円の施設は維持していくには重たいものと推測する。
- ・ 初期投資が 32 億円前後かかっており、建て替えとなると合併後の新市の市民の理解が難しいと思われる。
- ・ 今後は、最初に興味を持った「観光関連施設の一体管理に係る官民連携手法検討調査業務」の動向が見たい。

① 神楽門前湯治村の経営と現状について

■ 施設写真



② 道の駅 三矢の里あきたかたの経営について

■視察の目的

浜田市の観光の拠点となる「道の駅 ゆうひパーク浜田」が魅力ある施設となり、多くの人に利用してもらえるように、他地域で集客に成功している道の駅を視察し、浜田市の道の駅に取り込める部分がないかノウハウを学ぶため、人口規模は当市より小さく山間地であるが、賑わいを見せている当該道の駅を選定した。

■施設の概要

施設：地域振興施設（産直市、レストラン、多目的広場、多目的室）
非常用電源、貯水タンク

- 特色：
- ・野菜をテーマとしたフードパークの産直市
 - ・ノーバック駐車場の整備
 - ・地元食材にこだわったレストランやベーカリー
 - ・利用者や近隣住民の緊急避難場所機能と大規模災害の中継拠点基地
 - ・市内を周遊する動機付けを行うタイムリーな魅力・情報発信

令和2年6月1日開業
敷地面積：12,962㎡ 建築面積
整備年度：平成27年度～令和元年度
整備事業費：22,7億円（市12,1億円 国10,8億円）
施設概要：駐車場84台
公衆トイレ：男性(大3、小5)器、女性13器、
身障者用1器、オストメイト3器

② 道の駅 三矢の里あきたかたの経営について

■視察の内容 <<取組、事業内容等>>

➤ 整備のコンセプト

- ① 産業の活性化や雇用の確保による産業振興拠点
- ② 利用者から愛され親しまれる交流拠点
- ③ 地域文化や道路交通・災害時の情報発信拠点
- ④ 次世代へとつながるまちづくりの拠点
- ⑤ 災害時の地域防災拠点

➤ 整備の目的

- ・ **地域の活性化** : 積極的な情報発信により人を呼び込み、新たな賑わいの場を創出し、産業や観光の振興を図ることで物流や交流人口の拡大につなげ、市内全体の活性化を図る。
- ・ **観光施設の連携** : 多くの観光資源が散在しているが、集客につながっていないという課題。
観光資源相互のネットワークの強化の推進、受入体制の整備で魅力ある周遊・着地型観光の充実を目指す。
- ・ **観光振興の拠点** : 観光、歴史文化、農業の地域資源を結節する役割を果たし、「観光周遊促進拠点」として交流人口の拡大を期待している。

② 道の駅 三矢の里あきたかたの経営について

■質疑の内容

Q 施設整備にかかった費用や維持管理費、売り上げや集客数、決算状況等について

A 施設整備費 22.7 億、公設民営、第三セクター

Q 地元産品の出店状況、地元利用の割合は

A 契約農家 1,300 戸、60%~70%地元産、約 30%は他地域からの仕入れ 利用者は市外
県外が 7 割、市民利用は 2~3 割程度と少ない。

Q 集客に対する手法について（広報の方法など）

A イベントなどは SNS などを活用し案内している。いつ来ても面白いと思ってもらえる
イベントの計画を心がけている。

Q 販売に関して、展示やポップなどで工夫されていることについて

A 職員の手作りのポップ。野菜の山積みや特長の紹介。入り口付近に売りたい商品を陳列して目に付くよう工夫している。

Q 今後、出店を予定している企業などについて

A 「良品計画」が駄目になったので今のところは無い。



② 道の駅 三矢の里あきたかたの経営について

■委員の所感

- ・ 浜田の道の駅とは設置状況等に大差があるが、利用者目線での施設運営が大事であり、職員の接客態度から見直す必要があるように感じた。
- ・ 駅長自らが店舗前でお客の誘導を行うなど、気遣い・目配りがよくできていると感じた。
- ・ 今後の改善策を検討するためにも夕日パーク浜田が、そもそもどのようなコンセプトで現在のような施設配置としたのか整備計画を把握しておく必要性を感じる。
- ・ 産直売場に登録する農家は約 1300 人で市民のやりがい創出にもなっているとのことであった。
浜田においても浜田全域に係わる取組として位置づけ更なる投資をしてでも売場の充実は欠かせないと感じた。



② 道の駅 三矢の里あきたかたの経営について

■委員の所感

- ・ 太陽光と自家用消費型蓄電池システムの導入をはじめ防災関連設備も整備されており、災害時の避難場所、中継拠点基地の機能が備わっている。
- ・ 元々が地元の産直市としての施設。道の駅に移行しても地域から多くの出品があり、地域の星印的な施設と感じる。
- ・ 宣伝活動は、SNS や手作りのポップで経費の節約をしている。
- ・ 神楽門前湯治村もそうであったが、市の職員が派遣条例により派遣されていることに、市の関わりが見える。



総括

神楽門前湯治村

この施設の開始当時は、神楽のテント村という物珍しさに加え、産直・飲食・宿泊・温泉とからめた誘客に工夫が見られ、地域外の客も多くあったが、広島圏とはいえ中山間地という立地条件や、冬季の積雪・コロナ禍が客数の減少に拍車をかけたようである。また、多大な投資により開館したものであるが、25年の月日は建物の老朽化や温泉施設の不具合（泉質による管路の閉塞）などを引き起こし、大規模修繕を必要としているとの説明を受けた。また、昨今では不具合だけが原因ではないと思われるが、販売店舗に空きが多くなり賑わいに陰りが見受けられ、今後に不安がある。

このように、現地で説明を受けた委員の所感にも見受けられるように、神楽文化を継承と観光資源として活用するという方策には、幾多の問題や課題が見受けられる。

委員会としては、浜田市で計画されていると思われる神楽館建設に他所の事例を取り入れることはもちろんであるが、安芸高田市の神楽門前湯治村事業はマイナス面も含め、大いに参考とすべきと感じている。

道の駅 三矢の里あきたかた

開業後3年であり、施設そのものには新鮮さが見受けられるとともに、太陽光と自家用消費型蓄電池システムの導入、野菜をテーマとしたフードパークの産直市や地元食材にこだわったレストランやベーカリーなど特色を生かした運営がなされ、経営は順調と見受けられた。しかし、内情は苦しく多額な指定管理費用でなんとか経営されているようであった。

経営の良化を狙った「無印良品」の出店が頓挫するなど環境が良いとは言えないが、改善に向かう高い意志を職員は持っておられ期待できる。一方、集客方法、宣伝方法など工夫すべき点は多くあるようだ。

委員会として、令和8年度より新たな運営方式となる浜田の道の駅に関しては、他所の事例を参考とされ、テーマを明らかにして全体を組み立て、自主運営ができる体制を期待する。

